

販売高100億円へ向けての部門別

1 畜産部門における振興対策

A) 経営対策

1) 生産基盤の拡大

◆牛舎取得コストの縮減や子牛生産1頭当たりの固定経費の圧縮及び事故率改善の取り組みなど、収益性の向上を図ると共に、後継者が継続的に飼養できる環境づくりにより生産基盤の拡大を目指す

2) 後継者の確保及び育成支援

◆若い世代に畜産経営の魅力を伝え、就農支援制度などを活用し、産地を支える後継者の確保と人材育成を目指す（10年後目標：新規繁殖経営30人）

3) 経営の継続支援

◆廃業等による飼養頭数の減少に対応するため、経営の継続に向けた地域内での支援体制の整備を図るとともに経営基盤の継承体制の構築を目指す

B) 産地対策

1) 経営環境の改善と支援の充実

◆個別の経営対策の効果を高めるための指導体系の改善と必要な経営環境の整備を進める
◆受精卵移植（ET）の利用拡大による優良系統産子の安定供給を図る

2) 増頭支援施策の活用

◆新規就農者や集落営農組織など担い手の確保 ◆牛舎の増改築や素牛導入事業への取り組み

3) JAによる生産基盤の下支え

◆JAの農業経営によるモデル農場の実証と飼養頭数の拡大により、安定的な取引頭数の確保に努め、産地対策の実効性を高める

■令和3年度実践経過

①県導入事業及びチャレンジ7000事業を活用した導入支援

*県家畜導入事業：60頭・チャレンジ7000事業：37頭

②JA畜産施設での飼養規模拡大（R3導入頭数）

*繁殖研修センター（妊娠牛：41頭・初妊素牛：43頭・F1：21頭）

*CBS（初妊素牛：71頭）

■令和4年度取り組み計画

- 事故削減に向けた専門対策の実施 *分娩兆候通知システム（牛温恵）の活用支援など
- 規模拡大に向けた低コスト牛舎の実証 *簡易牛舎の実証及び放牧モデル候補地の選定
- 導入支援事業を活用した増頭支援
- 第12回全国和牛能力共進会への取り組み（産地評価向上に向けて）
- 畜産経営技術の向上に向けたセミナーの実施
- 畜産団地の形成に向けた用地選定等

基本方針と取り組み状況

[R3販売高実績での達成率 62.5%]

2 農産園芸部門における振興対策

1) 水田農業経営の効率化

◆水田利用の効率化・中間管理事業を活用した利用調整・機械利用の効率化・基盤整備の促進

2) 土地利用型作物の振興

◆米穀生産振興（高温耐性品種拡大等）・麦大豆の生産振興

3) JA主導による園芸団地の育成

◆設備投資の負担軽減とランニングコストやノウハウの補完による産地拡大加速に向け、ブリッジハウスやアパートハウスなど新たな施設園芸団地の育成への取組

4) 販売戦略の強化

◆販売価格の安定化に向け、契約販売や買取販売を拡大

5) スマート農業技術を活用した生産性向上

◆気象変化への対応や熟練の技術の活用、時間利用の効率化に向けIT技術や自動化技術を農業の現場での活用を進めていきます

6) 産直野菜生産拡大支援の拡充

■令和3年度実践経過

①スマート農業技術の実践と導入支援

*自動換気及び養液管理、環境制御技術の導入拡大（イチゴ）

②新品目産地育成 *ばれいしょ（ながさき黄金）の試験栽培・業務用契約野菜

③就農研修体制の拡充

*最長2年の技術研修・トレーニングハウスでの実践研修体制・マルチワーカー

④アスパラガス初期投資支援 *新植時の設備投資支援（堆肥・支柱相当）

⑤産直野菜特別対策…委託生産事業の実施（7件）

■令和4年度取り組み計画 [R3実践事項に追加分]

①園芸団地導入に向けた候補地の選定

②各品目の作付拡大と低コスト化・省力化への取組の具体化